



人手不足解消・業務効率化を実現！

# 生成AI×ローコード開発 導入完全ガイド

# はじめに

2022年にリリースされたChatGPTは世界に大きなインパクトを与え、ビジネスの現場でも生成AIの導入事例が増えています。また、アプリケーション開発を大幅に効率化できるローコード開発も、IT人材の不足や内製化推進の潮流を背景に活用が進んでいます。

この時流をふまえ、生成AIとローコード開発の組み合わせによって、  
**アプリケーション開発の加速、業務の効率化、リソース最適化などを実現できること**  
はご存じでしょうか。

本稿は、生成AI×ローコード開発による人手不足解消・業務効率化というテーマで、  
詳しく解説します。特に下記のような方には役立つ内容です。ぜひご一読ください。

- 生成AI×ローコード開発によってどのような効果を得られるのかを知りたい方
- ローコード開発において生成AIをどのように活用できるのかを知りたい方
- 生成AI×ローコード開発を実現できるプラットフォームを準備したい方



# 目次

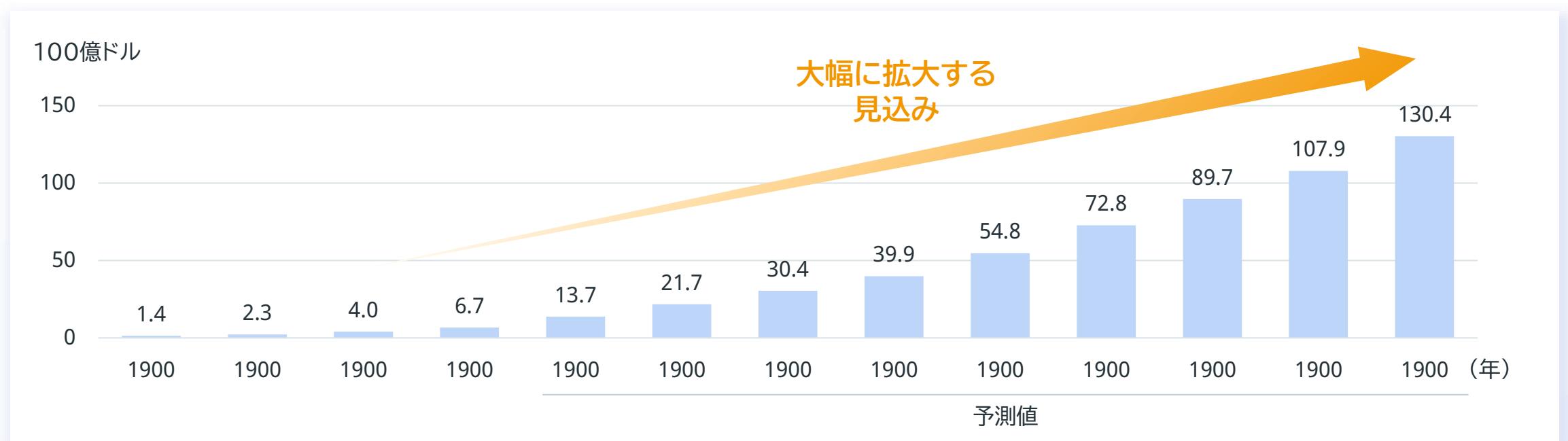
1. 生成AIの市場動向
2. ローコード開発の需要拡大
3. 生成AI×ローコード開発の有効性
4. 生成AI×ローコード開発で実現できること
  - ① 対話を通じた開発
  - ② アプリケーションへの生成AI組み込み
5. 生成AI×ローコード開発の環境構築方法
6. 生成AI×ローコード開発の実現における注意点
7. intra-martの生成AI連携機能とは？
8. IM-Copilotの主な機能
9. まとめ



# 生成AIの市場動向

AI関連技術の進化により、文章や画像、音楽、動画など、あらゆるコンテンツを生成できる「生成AI」が誕生しました。2022年11月にリリースされたChatGPTは、社会に大きな変化をもたらす革新的なツールとして注目されています。総務省が公表した「令和6年版 情報通信白書」によると、生成AI市場は急速に拡大しており、**2023年の670億ドルから、2032年には1兆3,040億ドルへと大幅に拡大する見込みです。**実際にマーケティング、セールス、カスタマーサポート、データ分析、検索、教育など幅広い分野で企業における生成AIの活用が進んでいます。

## 世界の生成AI市場規模(売上高)の推移及び予測



出典: 総務省「令和6年版 情報通信白書」 図表II-1-9-3 世界の生成AI市場規模の推移及び予測

# ローコード開発の需要拡大

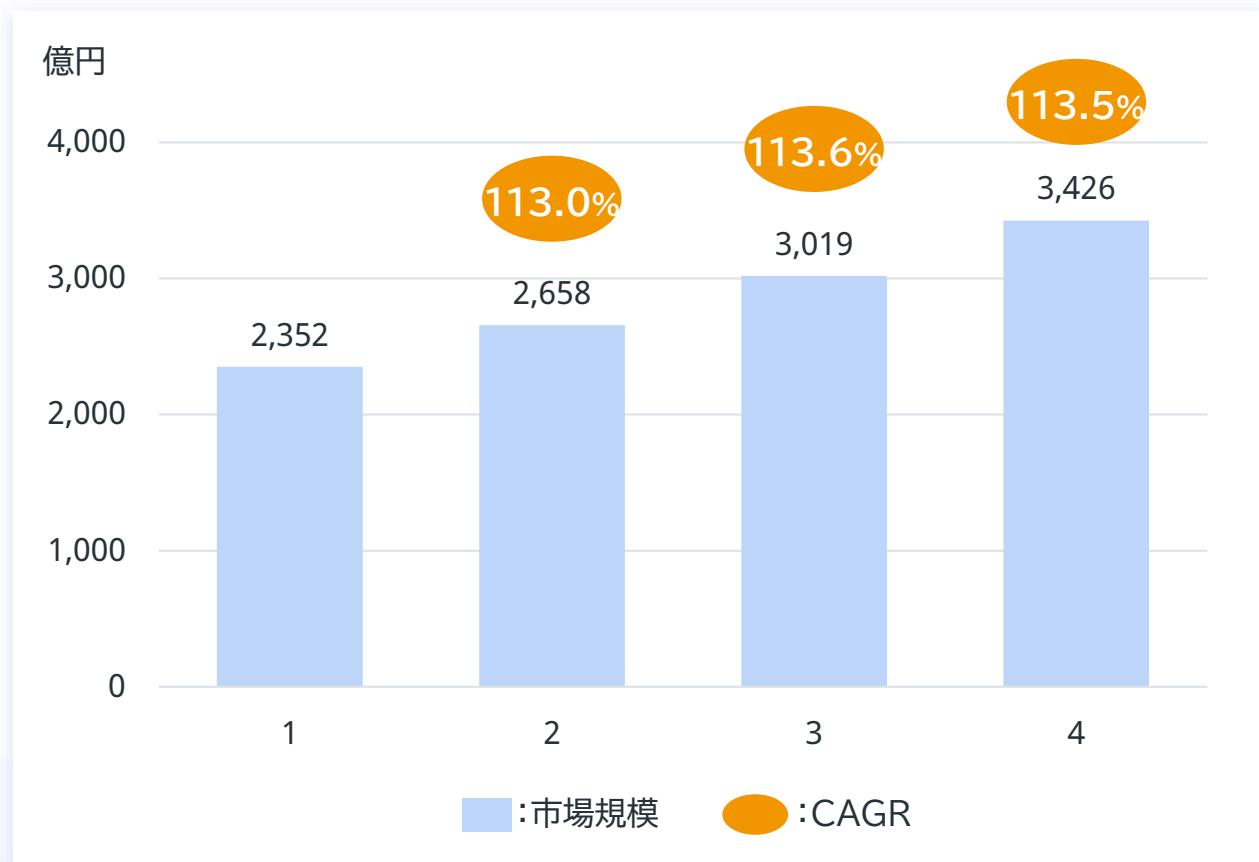
2011年頃に登場したアプリケーション開発手法であるローコード開発も、市場拡大が続いている。

デロイトトーマツの調査によると、ローコード・ノーコード開発プラットフォームの市場規模は、2022年度で対前年比113.0%の2,658億円でした。

さらに、2023年度は同113.6%の3,019億円、2024年度は同113.5%の3,426億円と、年々拡大を続けています。

特に2023年度以降、大企業におけるローコード開発の全社展開が進んだことや、ローコード開発と生成AIを組み合わせた活用により導入が加速していることが市場拡大の背景にあります。

ローコード／ノーコードプラットフォームソリューションの市場推移



出典： デロイトトーマツミック経済研究所

「[ガバナンス強化と生成AI活用で加速するローコード／ノーコードプラットフォームソリューション市場動向 2024年度版](#)」

# 生成AI×ローコード開発の有効性

市場の拡大が進む生成AIとローコード開発ですが、実は非常に組み合わせの相性が良いことをご存じでしょうか。

生成AIとローコード開発をそれぞれ利用するだけでも効果は得られます。しかし、これらを組み合わせることで得られる相乗効果は、企業のDXや業務プロセス改革、内製化など、人手不足の解消や業務効率化につながる施策をより強力に推進します。

## 生成AI×ローコード開発の組み合わせメリット

### 迅速かつ必要なリソースが少ない開発



ローコード開発による迅速かつ効率的な開発を、生成AIによりさらにスピードアップ

### ユーザーエクスペリエンスの向上



ローコード開発で構築したアプリケーションに生成AIを組み込むことで、ユーザーエクスペリエンスも向上

### 業務効率化



社内向けアプリケーションに生成AIを組み込めば、業務の効率化に貢献

# 生成AI×ローコード開発で実現できること

生成AI×ローコード開発により「対話を通じた開発」と「アプリケーションへの生成AI組み込み」を実現できます。

## ① 対話を通じた開発



- 開発時に生成AIを活用することで、高品質のアプリケーションを素早く構築できます。
- ローコード開発により削減できるアプリケーション開発工数を、生成AIでさらに削減することで、開発リソースの最適化が可能です。

## ② アプリケーションへの生成AI組み込み



- 開発するアプリケーションに生成AIサービスを組み込むことで、ユーザーエクスペリエンスを向上させ、業務の効率化につながる機能を提供できます。
- 業務部門の省力化が実現し、人的なリソースの再配置・最適化にもつながります。

次ページ以降で上記の**主たる2つの実現内容**について、詳しく解説いたします。

# ① 対話を通じた開発

生成AI×ローコード開発による対話を通じた開発では、生成AIとテキストなどで対話をすることで、サポートを受けながらローコード開発を行えます。



## 対話を通じた開発の具体例

### モックアップ

手書きで作成した画面イメージを読み込ませることで、モックアップを自動生成

### アプリ内で表示する文章

アプリケーション内に表示するラベルやポップアップメッセージなどを生成AIにより作成

### デバッグ

生成AIにデバッグ作業を行ってもらうことで、バグ出しや修正を実施

The diagram illustrates the AI-driven development process:

- モックアップ (Mockup):** A hand-drawn sketch of a form titled "社内備品登録" (Internal Asset Registration) with fields for "備品ID" (Asset ID), "備品の種別" (Type of asset), "備品名" (Asset name), "貸出期間" (Borrowing period), "貸出ユーザ名" (Borrower name), and "備考" (Remarks).
- アプリ内で表示する文章 (Text displayed in the app):** A text message from an AI assistant asking to generate an application from the uploaded screen.
- アプリケーション作成アシスタント (Application Creation Assistant):** An AI interface showing the generated application details:
  - Application Name: 顧客マスタ登録 (Customer Master Registration)
  - ID: customer\_master\_registration\_241105160224
  - Template ID: im\_craftsman\_template\_master\_maintenance
  - User Type: 顧客エンティティ (Customer Entity)
  - Description: このアプリケーションでは、顧客の基本情報を管理するための機能が提供されており、必要な
- 生成された画面 (Generated Screen):** A screenshot of the generated application interface showing a list of assets with columns: 備品名 (Asset Name), 貸出日 (Borrow Date), and 返却日 (Return Date). It also includes a detailed view of an asset entry with fields: 備品名 (Asset Name), 備品ID (Asset ID), 管理番号 (Management Number), 重量 (Weight), and 貸出日 (Borrow Date).

## ② アプリケーションへの生成AI組み込み

コード開発で構築したアプリケーションへ生成AI機能を組み込むことで、ユースケースの拡大やユーザーエクスペリエンスの向上が期待できます。



### アプリケーションへの生成AI組み込みの具体例

#### 経費精算の自動化機能

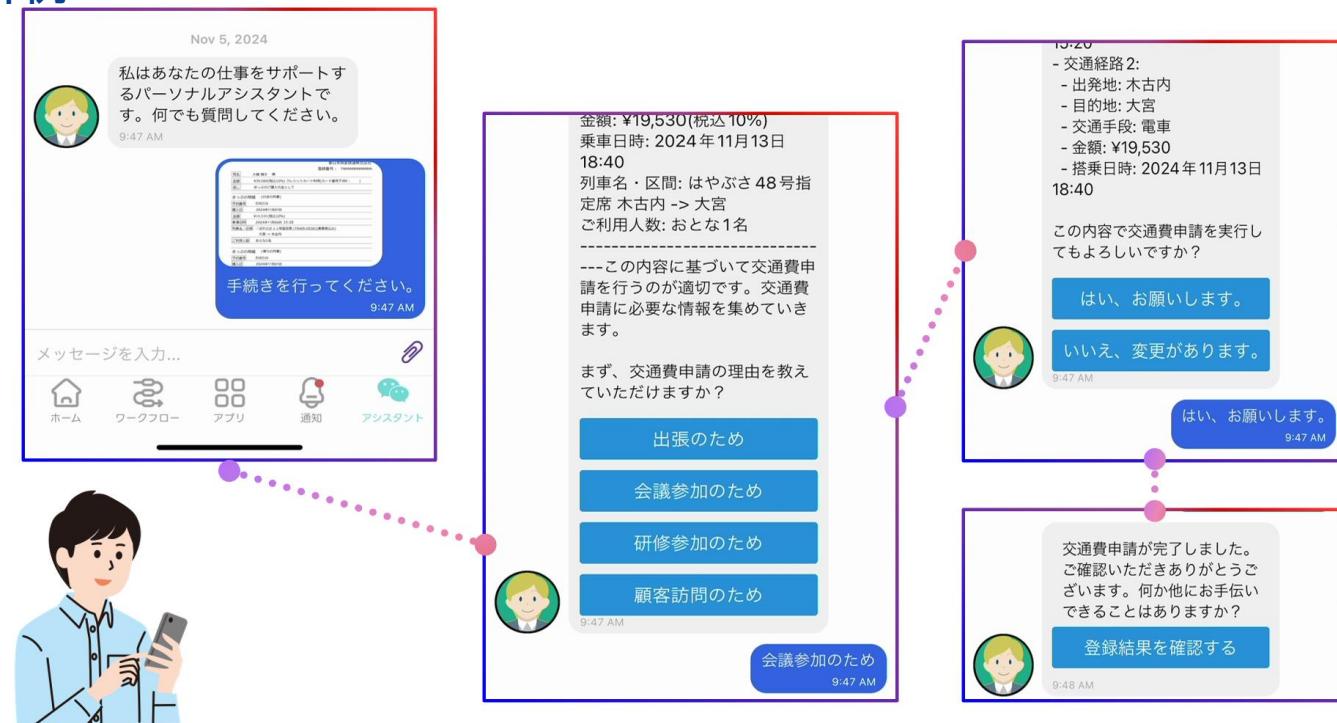
領収書の写真をアップロードすると、自動的に経費精算を行うアプリケーション

#### データ分析機能

生成AIへ検討したい項目を伝えることで、特定の観点でデータを整理、可視化するアプリケーション

#### 情報集約機能

社内ポータルから調べたい事柄に関係する情報を自動的に収集し、要約してくれるアプリケーション



# 生成AI×ローコード開発の環境構築方法

生成AI×ローコード開発の環境構築は、以下の手順で実施します。

## 生成AI×ローコード開発環境構築の流れ

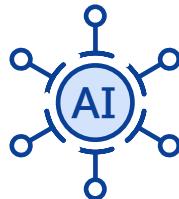
STEP  
01



### プラットフォームの導入

- ローコード開発を実現できるプラットフォームを導入します。
- ローコード開発プラットフォームに生成AIとの連携機能が備わっているか、エンタープライズレベルでのセキュリティや機能が担保されているかをチェックしましょう。

STEP  
02



### 生成AIサービスとの連携

- ローコード開発プラットフォームと生成AIサービスを連携させ、生成AIを利用できるようにします。
- 生成AIは進化のスピードが速いため、最新のサービスと連携できるかをチェックしましょう。

STEP  
03



### 社内データの活用

- RAG(Retrieval Augmented Generation)などの技術を利用し、社内データを生成AIにて活用できるようにします。
- データを蓄積するためのデータベースや生成AIに読み込ませるための検索機能などが備わっているかも確認しましょう。

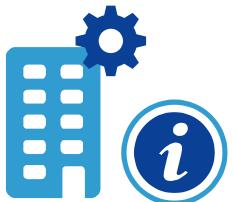
# 生成AI×ローコード開発の実現における注意点

ローコード開発において生成AIを活用する際の注意点は以下のとおりです。

## 生成AI×ローコード開発を実現する際のチェックポイント

### ✓ 質の良いデータ基盤の構築

- 自社データの活用においては、質の良いデータ基盤の構築が重要です。
- 業務に関連する社内規程などのデータは、常に最新の情報を取得できるように環境を整備しましょう。



### ✓ ガバナンスの強化

- 生成AIの利用にあたっては、誤った情報を提供してしまう「ハルシネーション」や情報漏えいなどのリスクもあります。
- 社内で生成AIの利用に関するルールを整備し、人的なセキュリティリスクを抑えることが重要です。
- セキュリティを担保できるローコード開発プラットフォームを選択することで、仕組みとしてセキュリティを強化するアプローチも有効です。



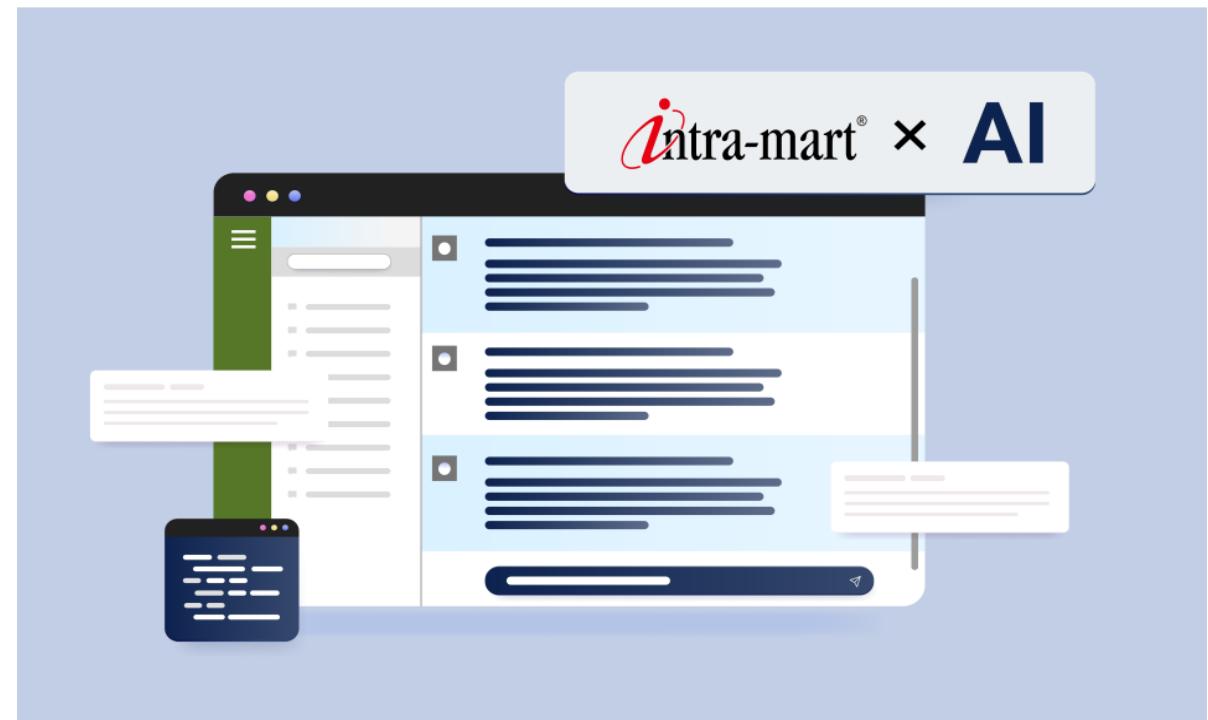
# intra-martの生成AI連携機能とは？

NTTデータ イントラマートが提供するエンタープライズ・ローコードプラットフォーム「intra-mart Accel Platform」では、生成AI連携機能「IM-Copilot」を利用できます。エンタープライズ向けに提供されるIM-Copilotは、企業が生成AI×ローコード開発を実現するための心強い味方となってくれます。

## IM-Copilotの特徴

- Azure OpenAI、OpenAI、Amazon Bedrockなど最新の各種生成AIと連携できます。
- チャット、画像生成、文字起こし、音声生成など幅広い機能を提供します。
- GUI開発のローコード開発ツールにより、プログラミング知識がなくても生成AIを利用可能です。

**Co** IM-Copilot



# IM-Copilotの主な機能

「IM-Copilot」では以下のような機能が提供されます。

Co **IM-Copilot**

## IM-Copilotにより実現する生成AI機能

### システム利用者向け機能

- システム利用者向けに、チャット形式で生成AIを利用できるインターフェースを提供
- アプリケーション内で手軽に生成AIを利用可能



### システム開発者向け機能

- システム開発者向けに、生成AIと対話しながらアプリケーションを開発できる機能を提供
- ローコード開発によるアプリケーション構築をさらに効率化



### 生成AI活用のためのユースケースカタログの提供

- intra-mart Accel Platformと生成AIを組み合わせた様々な活用例をご紹介するカタログを提供
- 豊富なアイディアを参考に、自社アプリに適した生成AIの活用方法を検討可能



※各機能は順次リリース予定です。

# まとめ

本稿のポイントは以下のとおりです。

## POINT 1



- 生成AIおよびローコード開発の市場は拡大しており、今後企業において生成AIやローコード開発を活用しないという選択肢はないでしょう。

## POINT 2



- ローコード開発を実施する際には、生成AIと組み合わせて利用するとより効果を発揮します。
- 生成AI×ローコード開発により、業務効率化・内製化の加速による人手不足解消やリソースの最適化を実現できます。

## POINT 3



- エンタープライズ向けに提供されているintra-martの生成AI連携機能「IM-Copilot」により、ローコード開発を加速させる生成AI活用が可能になります。
- 企業規模を問わず、ビジネスの現場で活用可能です。



株式会社NTTデータ イントラマート

東京都港区赤坂四丁目15番1号 赤坂ガーデンシティ5階



<https://www.intra-mart.jp/>



[contact@intra-mart.jp](mailto:contact@intra-mart.jp)

- 掲載内容は2025年3月現在のものです。
- intra-martは株式会社NTTデータ イントラマートの登録商標です。
- その他の各種製品名は、各社の製品名称、商標または登録商標です。